

専攻科福祉専攻～授業の様子③&地域との交流～

雪が深々と降り積もり、日々寒さが増してくる今日この頃、皆様はいかがお過ごしでしょうか。私たち専攻科福祉専攻は就職活動と一月の国家試験に向けての試験勉強と、日々慌ただしい日々を過ごしています。今回は11月、12月に行った授業の様子と地域活動の様子を紹介していきたいと思います😊

■経鼻経管栄養の実施での学び

医療的ケア演習の授業で、経鼻経管栄養の実習を行いました。医師の指示書から点滴の流す速さを計算する方法や、チューブが正しく胃まで入っているかどうかの確認について学びました。また、以前学んだ鼻のチューブの固定方法について復習しました。



■視覚障がい者への歩行介助実習

生活支援技術の授業で、視覚障害を持つ方に対する歩行介助について学びました。利用者と介助者の身長差によって歩行の際に手を置く位置が変わること、歩行の際の声掛けの仕方について演習の中で身に着けることができました。



■留置ストーマの体験・排泄介助実習

留置ストーマの方がつける排泄用のパウチに実際にとろみをつけた水を入れ、実際に排せつ物が入っているような体験、排泄介助実習を生活支援技術の授業内で行いました。実際にパウチを下腹部に知けて歩行、座ってみると皮膚が引っ張られるような感覚や中身が外部に見えることから、不快な気分があることを知ることが出来ました。

また、排泄介助を行ってみて利用者の思いを汲み取りながら介助を進めていくことの大切さを学びました。



■みんなの食堂「つきがえし作り」

みんなの食堂では横内地域の高齢者の方々と私たち専攻科福祉専攻の学生、そして青森中央学院大学の学生で「つきがえし」というお団子づくりを行いました。作り方は、11月まで横内地域の民生委員であった方に教えていただきました。今回の活動では、お団子作りを通して地域の皆さんが若いときに「つきがえし」を食べたこと、母親が作っている様子を見ていたことなどを笑顔で話す姿が見ることが出来ました。

このような地域住民が関われる場を設けることによって、地域活性化や独居世帯の高齢者のQOLの向上が図れるのではないかと活動を通して感じました。

